

地球温暖化防止プロジェクト推進会議 議事概要

1 日 時

令和5年2月20日（月） 14:00～15:10

2 場 所

TKP ガーデンシティ岡山カンファレンスルーム 4J 及び オンライン（ZOOM）

3 出席者

別紙出席者名簿

4 傍聴者

2名（2名現地、内1名報道関係者）

5 議事等

（1）議事1 岡山県地球温暖化防止行動計画の進捗状況

資料1、2により事務局から説明を行った。

（2）議事2 地球温暖化対策に係る取組等について

各委員から、取組等の紹介を行った。

ア 吉田副会長

- ・（公財）岡山県環境保全事業団が開催した環境フォーラムに招いた講師（江守正多氏）の発言の紹介
 - ・日本では環境に良いことは、我慢を強いるイメージがあるが、そう考えると取組は進まない。
 - ・二酸化炭素を出さないことが当たり前の社会への大転換がこの30年間に起こらないといけない。大転換の例として、分煙革命（公衆の前で喫煙しないことが当たり前となった）が挙げられる。
 - ・「脱」炭素ではなく、「卒」炭素といったように前向きに捉えていくことがよいのではないか。
- ・詳細は、2月26日の朝刊に掲載されるのでご覧いただきたい。また動画はアースキーパーメンバーシップ会員限定で2月末まで視聴できるので、この機会に登録していただきたい。

イ ENEOS株式会社 山本委員代理（資料4-2）

- ・ENEOS株式会社水島製油所では、水素キャリアとして、MCH（メチルシクロヘキサン）を用い、水素を取り出し、利用する実証実験を開始している。MCHは水素の容量を低減し、液体として扱えることで輸送コストを抑えることができるメリットがある。
- ・将来的には、グリーン水素の活用や、他社へ水素を供給することも見据えている。
- ・Direct MCH®により、一段階でMCHを製造できることが強みである。
- ・このような取組でカーボンニュートラルに貢献していきたいと考えている。

ウ 中国四国地方環境事務所 吉田委員代理（資料4-3）

- ・環境省の自治体向け、事業者向けの補助事業等について紹介

- ・(株)脱炭素支援機構について紹介
 - ・相談があれば、地方環境事務所の地域脱炭素創生室まで連絡してほしい。
- エ 岡山地方気象台 新納委員（資料4-4）
- ・気象庁のホームページで様々な観測データを公開し、温暖化への警笛を鳴らしている。
 - ・最近4年間の平均気温はずっと高い状況であり、怖いデータが出ている。
 - ・海水温も右肩上がりです上昇している。
 - ・結果、空気中に蓄える水蒸気量が増加し、非常に激しい雨の降る回数が増加している。また一方で日降水量1ミリ以上の雨が降る日は減少している。
 - ・温暖化が昨今の大雨災害に影響しているということを、出前講座などで紹介している。
- オ 中国電力株式会社 山本委員（資料4-1）
- ・昨年、火力発電のトランジション計画を策定しているので紹介する。
 - ・取組の方向性として大きく3つある。1. 非効率石炭火力の休廃止、2. 石炭火力に対するバイオマス混焼及びアンモニア混焼・専焼化、3. LNG火力に対する水素の混焼、専焼化である。
 - ・最終目標である火力発電の脱炭素化に向けて、S+3Eを前提にあらゆる選択肢を追求していきたいと考えている。

(3) 議事3 岡山県地球温暖化対策実行計画（素案）に対する意見募集結果について
資料5により事務局から説明を行った。

【質疑応答等】

(廣本委員)

- ・自分の周りでは、計画の内容が難しいという意見が多かった、県民に真剣に考えてもらい、行動変容につなげてもらうよう、わかりやすい形で計画の内容等について伝えてもらいたい。

(千葉会長)

- ・この問題は自分たちに跳ね返ってくるものなので、県には折りに触れて、わかりやすく説明していただきたい。家庭からの排出も大きな割合を占めているので、個人の生活がそのまま排出量に反映されることを広く県民に理解してもらいたい。誰かがやってくれるのではなく、自分達がどうすべきかという意識を持つように県から伝えていただきたい。

(原田委員)

- ・数値が良いか悪いかについては様々なデータも必要になり、答えられる人は少ないと思う。このような会議の場では、常に新しいことに目を向け、情報を更新していくことが大事であり、意識の盛り上げが大きな役割だと思う。パブリックコメントでは教育や社会情勢に関する意見はあったのか。

(事務局)

- ・何をどれだけやれば、温室効果ガスの削減にどれだけ貢献するのか示してほしいといった意見があった。これについて、県民に期待する取組として環境省が

推進しているゼロカーボンアクション30を計画に記載しているが、ここに二酸化炭素の削減量を追加して示すこととした。わかりやすい情報発信に努めていきたい。

(野沢委員)

- ・一般の方は、国より低いという数字のみに注目してしまう。県の考え方もわかるので、そこは丁寧に説明していくしかない。数字が低いことが何もしなくてもよいと捉えられるとよくない。
- ・行動変容について、こちらからセミナー等に来てくださいと言ったときに、来る人達ではなく、来ない人達に対し、いかに訴えるかに頭をひねらないといけない。数字よりも、どうやって一般の方々を本気にさせるかをこの会議でもっと議論できればよい。

(千葉会長)

- ・数字が一番わかりやすく、その意味で自然科学的な問題は客観的な数値として明確になっている。一方、生活態度、価値観といった社会・人文科学的な分野の問題は難しく、根気強く啓蒙していくしかない。
- ・大事なのは子供の教育であり、遠い道のりに見えるが、温暖化対策の行動を日常の生活習慣に取り込むことを子供のときに教えることが一番確実な対策ではないかと思うので、教育委員会とも連携して取り組んでいただきたい。

(4) 議題4 岡山県地球温暖化対策実行計画(素案)からの主な変更点について

資料6により事務局から説明を行った。

【質疑応答等】

(廣本委員)

- ・ゼロカーボンアクション30に追記した年間二酸化炭素削減量について、単位が一人当たりや世帯当たりとなっているが、項目によってはもっとわかりやすい単位があるのではないかと思う。また窓断熱による削減量について、詳細を教えてください。

(事務局)

- ・環境省が出している数値をそのまま引用している。